令和２年度　臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔補綴科

第３期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。(塗りつぶし可)

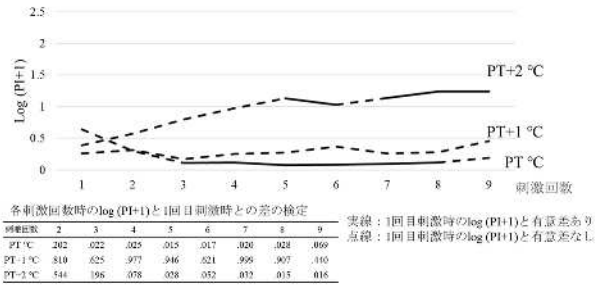
☐１．口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
☐２．高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
☑３．顎口腔機能の維持増進に関する研究
☐４．歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
☐５．その他

研究期間：西暦　2018 年　1 月　30 日　～　2022 年　3 月　31 日

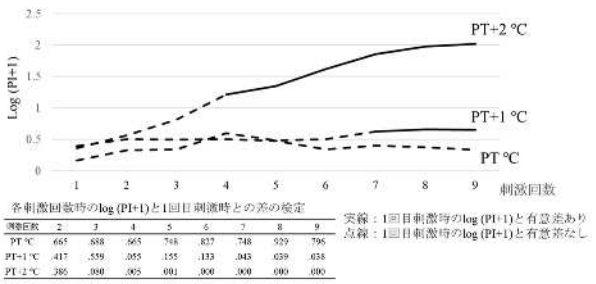
研究課題名：顎関節症における疼痛の中枢性感作による過敏化発症の実態調査ならびに中枢性感作が治療成績に及ぼす影響

研究課題の概要及び成果：顎関節症の標準治療として，開口訓練や認知行動療法などの非観血的な治療法が推奨されている．ただし，治療介入に反応しない難治症例も存在する．この原因の一つとして，末梢性あるいは中枢性感作による慢性疼痛が疑われている．中枢性感作を直接評価することは困難であるが，temporal summation of second pain （以下，TSSP）発現様相を比較し，中枢性感作の評価に有用な dynamic QST 刺激強度を検討した．その結果，刺激強度を患者固有の疼痛強度刺激強度とすることが中枢性感作を調べるために有用であることが示された．非疼痛群は，繰り返し刺激により３回目から８回目の刺激回数で主観的疼痛強度は有意に減少し，TSSP の発現率は０％であった．一方，有痛性顎関節症群は，10 ％の被験者に TSSP を認めたことから，疼痛関連顎関節症の一部で中枢性感作が生じている可能性が示唆された．

上記概要・成果に関連する図表等



刺激回数	2	3	4	5	6	7	8	9
PT ℃	.202	.022	.025	.015	.017	.020	.028	.069
PT+1 ℃	.810	.625	.977	.946	.621	.999	.907	.410
PT+2 ℃	.544	.196	.078	.038	.052	.032	.015	.016



刺激回数	2	3	4	5	6	7	8	9
PT ℃	.665	.688	.665	.748	.837	.748	.929	.795
PT+1 ℃	.417	.559	.055	.155	.133	.043	.039	.038
PT+2 ℃	.386	.080	.005	.001	.000	.000	.000	.000

図．各刺激強度の繰り返し刺激による主観的疼痛強度への経時的影響
　　左：非疼痛群，右：有痛性顎関節症群

当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のＢＯＸのいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

☑　関連がある
☐　関連はない